

社会福祉法人創立 70 周年記念式典理事長あいさつと将来展望

本日は社会福祉法人愛恵協会創立 70 周年記念式典に、この様に多くの皆様に御出席頂き誠に有難うございます。ウィズコロナの状況の中、公私共に御多忙中の皆様に感謝の念でいっぱいです。

愛恵協会の前身は昭和 22 年岡崎市山綱町字扇子山の国有地に、山中村営「扇子山収容所」という戦後外地から引揚者のお世話から始まり、昭和 26 年財団法人愛恵協会「愛恵園」に名称変更。翌昭和 27 年 5 月 17 日初代理事長加藤唯一氏により社会福祉法人愛恵協会創立。以来 70 年が経過しました。この間ここに御出席いただきました皆様を初め多くの方のお世話になりました。私が愛恵協会に勤めさせて頂いてから約 40 年になりますが、この間だけでも皆様には「ああ、あの時にお世話になったなあ」ということが思い出されます。例えば、山中学区地域住民の皆様です。利用者が迷惑行為をした時に、苦情は言っても排除しない。障がい者の中でも理解されにくい精神障がい者にも、それまで利用していた障がい者と差別することなく受け入れて頂きました。精神障がい者生活訓練施設と知的障がい者通勤寮の合築で難しい国庫補助申請時は杉浦正健先生の、又「愛恵園」「愛恵園授産所」「ステップやまなか」の 4 年間に 3 事業所改築にも、行政や国県市の各議員の皆様の大変な御支援が無ければ実現出来ませんでした。この様に皆様のお陰で現在の愛恵協会があります。

ここで少し将来展望を述べさせて頂きます。創立 70 周年を機に新愛恵宣言で持続可能な開発目標に示された「誰一人取り残さない」社会の実現を求めて、誰もが生き生きと自分らしく安心して暮らすことが出来る街づくりを推進してまいります。10 年の長期目標として、1 つ目は、なかしばエリアや農地の活用等地域にある社会資源を活用して障がい者・生活困窮者だけでなく、児童や高齢者の福祉を地域住民との交流により推進します。2 つ目は、相談支援事業や訪問系事業から見えてくる地域生活課題に、公益事業として取り組みます。3 つ目は生活保護施設を核とした生活困窮者支援に取り組み、三河地域の拠点を目指します。4 つ目は、以上のことを行う職員が、働き続けたいと思える職場環境の整備を図り、協会事業の継続発展と利用者・職員の幸福追求に努めます。今後 10 年、以上のことに取り組んでまいりますので、皆様方の御支援・御協力を宜しくお願い致します。ごあいさつとさせて頂きます。